

AMRに関する県民への普及・啓発に関する研究

研究分担者 新居 晶恵 三重大学医学部附属病院 感染制御部

研究要旨

薬剤耐性（AMR）対策推進月間である 11 月を中心に市民を対象に啓発活動を行った。

本年度の市民公開講座は、高齢者とその家族をする者を主な対象と位置づけ、三重県内の病院、高齢者施設、保険薬局にチラシとポスターを配布するとともに、駅構内にポスターを掲示した。また、三重交通のバス 2 台側面に AMR に関する巨大ポスターを貼り 11 月の 1 か月間、人通りが多い路線（津・四日市）で運行を行った。11 月 23 日（木・祝）に市民公開講座（上手に付き合おう「バイキン」と「クスリ」～肺炎についてもっと知ろう～）を開催した。市民公開講座では、講演のほか、手洗い演習や顕微鏡での微生物観察など体験型のコーナーも設けた。これら市民啓発活動の準備から終了までの活動内容を整理した。

A. 研究目的

薬剤耐性（AMR）の拡大を防ぐためには、医療者だけでなく、国民（市民）も感染症にかからない、拡げない方法を実践するとともに、抗菌薬の正しい服用方法についての知識を習得する必要がある。

しかし、AMR が注目されてまだ間もないこともあり、AMR の認知度は低い状況である。今回、AMR という言葉を市民に知ってもらい、また、興味を持ってもらうことを目的に市民公開講座を含む各種啓発活動を行なった。本分担研究の目的は、他地域でも参考となるよう、市民への啓発活動の一例を提示することである。

B. 研究方法

国の「薬剤耐性（AMR）対策推進月間」である 11 月を中心に、三重大学病院感染制御部が主体となり、(1)ポスター等の啓発資材の作成・周知、(2)市民公開講座など学習の機会の提供を行った。

市民啓発活動の準備から終了までの活動内容をまとめ、アンケート結果等をもとに検証した。

本研究の実施にあたっては、研究代表者、分担

研究者のほか、市民公開講座運営者からなる研究班によって検討を行った。本分担研究班のメンバーは以下の通りである。

	氏名（職種）	所属
研究 代表者	田辺 正樹 (医師)	三重大学医学部附属病院 感染制御部、感染症内科
分担 研究者	新居 晶恵 (看護師)	三重大学医学部附属病院 感染制御部、看護部
研究 協力者	福田みどり (看護師)	三重大学医学部附属病院 看護部
研究 協力者	中原 弘喜 (看護師)	三重大学医学部附属病院 看護部
研究 協力者	山崎 大輔 (薬剤師)	三重大学医学部附属病院 感染制御部、薬剤部
研究 協力者	森川 祥彦 (薬剤師)	三重大学医学部附属病院 薬剤部

(倫理面への配慮)

本研究は体制整備についての研究であり、個人が識別可能なデータは取り扱わないが、写真等を用いる際に個人が特定できないように配慮した。

C. 研究結果

研究代表者、分担研究者がコアとなり、ポスター等の啓発資材の作成・周知、市民公開講座の準備等を行なった。

1. チラシ・ポスターの作成

市民公開講座のチラシ・ポスターを作成した。本年度の市民公開講座は、高齢者とその家族を主な対象と位置づけたため、穏やかな柔らかい雰囲気 of チラシとした (図1)。AMR 対策推進月間の周知ポスターについては、昨年度作成したものを継続的に使用した (図2)。



図1 平成29年度・市民公開講座チラシ



図2 AMR 対策推進月間周知ポスター

市民公開講座のチラシ・ポスターについては、A4 サイズのチラシ 29,500 部、A3 サイズのポスター1,200 部、B1 サイズのポスター10 部を作成した。市民公開講座は、三重大学医学部附属病院が主催者となり、三重県感染対策支援ネットワークを共催とした。また周知するにあたり、三重県感染対策支援ネットワーク (MieICNet) の運営に関わっている団体 (三重県医師会、三重県病院協会、三重県看護協会、三重県薬剤師会、三重県病院薬剤師会、三重県臨床検査技師会、三重県老人保健施設協会) に加え、三重大学医学部附属病院、三重県老人福祉協会に後援を依頼した。

2. 市民公開講座の周知

①MieICNet の HP (<http://www.mie-icnet.org/>) 上に特別サイトを作成し、チラシの QR コードから参加申し込みができる形式とした。また、はがき、FAX での申し込みも可能とした (図3)。

図3 平成29年度・市民公開講座申し込み用紙

②三重県内の病院（94）、三重県内の高齢者施設（232）、三重県内の保険薬局（738）にチラシとポスターを配布した（表1）。

表1 チラシ・ポスターの配布数

施設 (数) 配布時期	配布数		
	市民公開講座(図1)		AMR対策推進 月間ポスター(A3) (図2)
	チラシ	ポスター (A3)	
病院 (94) 9月中旬	各病院あ たり20部 (計1880 部)	各病院あ たり1部 (計94 部)	各病院あ たり1部(計 94部)
高齢者 施設 (232) 10月末	各施設あ たり10部 (計2320 部)		

保険薬局 (738部 9月中旬)	各薬局あ たり20部 (計14760部)		各薬局あ たり1部(計 738部)
------------------------	----------------------------	--	-------------------------

③11月のAMR推進月間のWorld Antibiotic Awareness Weekにあわせ、11/5-11/25にJR津駅へポスターを掲示した。B1サイズの市民公開講座とAMR対策推進月間ポスター各4枚を駅の連絡通路に並べて掲示した(図4)。



図4 JR津駅へのポスター掲示

3. ポスターバスの運行

11月のAMR推進月間のWorld Antibiotic Awareness Weekにあわせ、三重交通のバス2台側面にAMRに関する巨大ポスターを貼り11月の1か月間、人通りが多い路線(津・四日市)で運行を行った。ポスターバスの運行開始前に三重大学病院駐車場でお披露目会を行った。(図5)。その様子が中日新聞へ掲載されることで2次的効果を得ることができた(図6)。



図5 バスのお披露目会



図6 中日新聞掲載記事



図8 市民公開講座の様子

4. 科学の祭典への出店

11月3日・4日(土・日)三重大学講堂で行われた青少年のための科学の祭典 三重大学大会へ出店した。2日間で当ブースには686名の子どもと保護者が参加した。顕微鏡で微生物を観察し、手指衛生の必要性を知る、手指衛生の方法を学ぶ内容とした。AMRの周知は、AMRリファレンスセンターよりパンフレットとパネルの提供を受け、既成のものを用いて実施した。(図7)。



図7 科学の祭典 三重大学大会

5. 市民公開講座の開催

11月23日(木・祝)に市民公開講座(上手につき合おう「バイキン」と「クスリ」～肺炎についてもっと知ろう～)を開催した(図8)。

日時：平成29年11月23日(木祝)9時-12時
 場所：アストホール(アスト津アストプラザ内)
 内容：

- A. 講演の部
 - ①肺炎についてもっと知ろう
(三重大病院・医師)
 - ②感染対策についてもっと知ろう
(三重大病院・看護師)
- B. 学びのコーナー
 - ①バイキンを見てみよう(顕微鏡で微生物を観察)
 - ②手をきれいに洗えるようになろう(手洗いチェッカーを用いた手洗い演習)
 - ③咳エチケットトレーニング(咳エチケットの体験)
 - ④パネル展(AMRリファレンスセンターより)
- C. 申し込み応募者：187名
 9月15日申し込み開始とし、9月申し込み24組31名、10月申し込み77組118名、11月申し込み28組38名の合計130組187名から参加の応募があった。
 申し込み方法は、はがき・FAX・メール・電話とし、はがき41組、FAX49組、メール32組、電話8組であった。
- D. 参加者：157名
 29歳まで2%、30-49歳13%、50-69歳38%、70歳以上45%の順であった。

E. スタッフ：三重大学病院職員、県内病院の感染対策担当者、ボランティアなど計20名

講演だけでは、学習効果が乏しいと考え、「学びのコーナー」を設置し、講演前や休憩時間に顕微鏡での菌の観察や手洗いチェックなどの体験の機会を提供した。参加者のうち、139名からアンケートを回収した。津市内からの参加が66.1%であった。イベントをどこで知ったかについては、チラシ44.3%が最も多く、次いで、広報誌32.3%、ポスター15.5%の順であった。チラシ・ポスターと回答のあった97名の内訳は表2のとおりであった。

表2. チラシ・ポスター周知による参加

	チラシ	ポスター	計
高齢者施設	5	3	8(8%)
病院	11	6	17(17.5%)
保険薬局	16	14	30(30.9%)
回覧板	42		42(43.2%)
計	74	23	97

講演の評価も、参加者の90%程度は「良かった」との回答であった(図9)。

学びのコーナーについては、「手洗い体験」「咳エチケット」「身近な菌を見てみよう」全ての参加者の90%程度が「よかった」との回答であった(図10)。

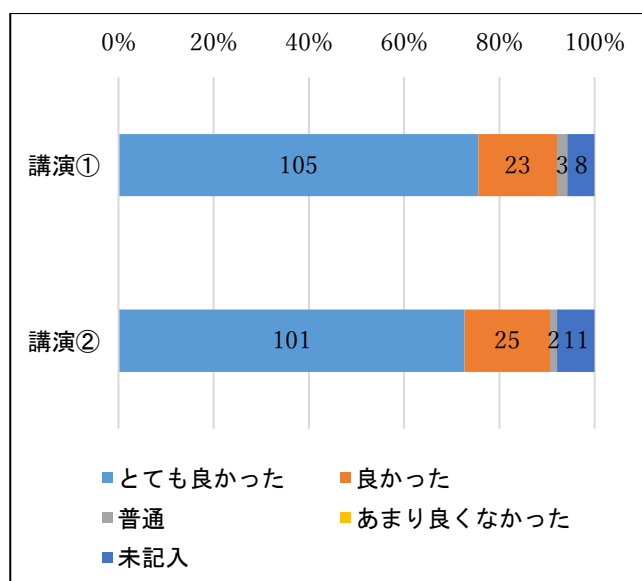


図9 市民公開講座（講演部）の感想

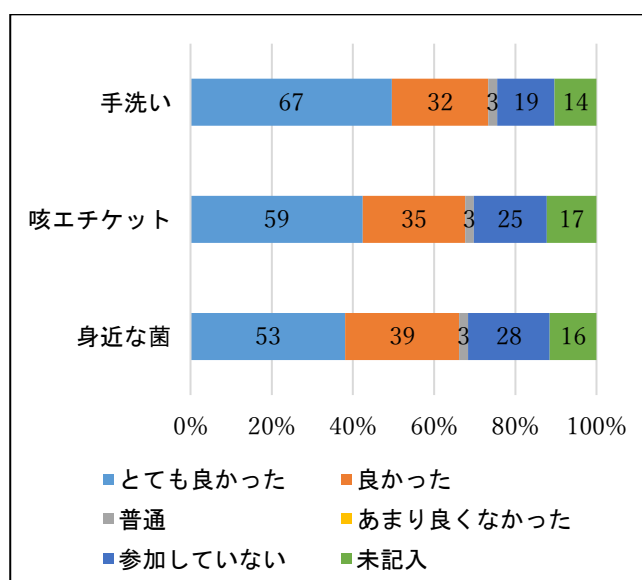


図10 市民公開講座（学びのコーナー）の感想

D. 考察

AMR 対策という市民がなじみのない分野での啓発活動は、まずは AMR という言葉を市民が認知し、興味を持ってもらうことから始めなければならない。

本分担研究ではまず、AMR という言葉を市民に知ってもらうために、1日乗降人数が26000人強である津駅の掲示板に AMR 対策推進月間にポスターを貼る、バスという動く媒体を使用し、多くの人の目に触れるような取り組みを行った。このような活動も多くの市民の目に留まったと思われる。

インパクトがある広報方法を今後も模索し継続的に行わなければならない。

市民公開講座は、昨年度と違った年齢層をターゲットに絞った。9月中旬の津市広報へのチラシを挟み込み、公共機関等（病院・保険薬局）にポスターの貼付、チラシ配布の依頼行った。ターゲット層に合った広報方法であったため、募集開始とともに参加申し込みがあり、昨年より少ない資材で多くの参加者を得ることができた。ターゲットごとに広報方法を考慮する、ターゲットが申し込みやすい媒体での申し込み方法を準備することが必要なことが明らかとなった。

AMRを前面に出さず「肺炎」をテーマとした講演会の中でAMR対策の必要性を説明する手法をとることによってAMRを知らないと思われる受講者へAMR対策を肺炎の治療からうまく伝えることができた。

学びのコーナー「バイキンを見てみよう」は、臨床検査技師が運営した。モバイル顕微鏡「mil-kin（見る菌）C-Type」を用いた。試料ステージに流し台の排水を乗せてスマートフォン画面で試料ステージの細菌を見せた。スマートフォンとディスプレイをケーブルで接続し動画を表示させ、多くの参加者が一度に参加できるようにした。

「手洗い体験」は感染管理認定看護師が運営した。会場が明る過ぎるとブラックライトで蛍光塗料があまり光らないため、黒い布を敷くなどの工夫を行った。多くの参加者が手を洗うため、手洗い場周辺が水浸しになることを考慮し清掃すること、手洗い場で行列ができないように手洗い場を多く確保することなどが必要であった。

「咳エチケットトレーニング」は、紙芝居とし、咳エチケットが必要な日常の場面を出して〇×クイズを行った。最後にマスクの正しい着用方法を感染管理認定看護師と共に行う方式とした。

アンケートの結果、講演会、学びのコーナーともに80%以上が良かったとの回答であったことから今回の市民公開講座は有効であったと考える。

今後も同様の方法でより効果的に集客する方法を考え市民公開講座を継続する。一方、我々の活動を知り講演依頼が増加しているため、他者が企画したイベントへ協力する形でAMRを伝える方法も検討していく必要がある。

E. 結論

市民になじみのないAMRという言葉を知ってもらう、興味を持ってもらうことは、草の根の活動が必要でありすぐに目に見える反応につながるものが難しいことが解った。AMRという言葉を知ってもらうためにインパクトのある広告を多くの人が見る場所へ掲示することが有効と考えられた。

市民公開講座は、AMR対策を広めるためには有効であるが、継続的に市民公開講座を行うには、大人数を対象に予算をかける方法だけではなく、小規模な市民のコミュニティー（学校での授業、婦人会、老人会等）で数多く講演するなど、草の根的に広げていく方法も今後必要と思われる。

F. 研究発表

1. 論文発表 なし
2. 学会発表
 - 1) 田辺正樹、新居晶恵、中村明子. 薬剤耐性 (AMR) に関する市民啓発の取り組み. 第88回日本感染症学会西日本地方会学術集会、第61回日本感染症学会中日本地方会学術集会、第66回日本化学療法学会西日本支部 合同学会（鹿児島）, (2018.11)
 - 2) 新居晶恵、中村明子、中原弘喜、山崎大輔、福田みどり、田辺正樹. 薬剤耐性 (AMR) に関する市民啓発の取り組み. 第34回日本環境感染学会総会・学術集会（神戸）, (2019.2)

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし